

# 矢作川総合水系環境整備事業

## 説明資料

平成27年9月25日

国土交通省 中部地方整備局  
豊橋河川事務所

# 目 次

1. 事業の概要及び評価の視点	
①事業の目的及び概要	1
②事業の計画内容と投資効果	2
③事業の必要性等	
1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化	4
2) 事業の進捗状況	5
2. 県への意見聴取結果	6
3. 対応方針（原案）	6

# 1. 事業の概要及び評価の視点

## ①事業の目的及び概要

### 【事業の目的】

●矢作川は、かつて砂州が卓越する河川であり、河口部には干潟、ヨシ原が広がり、良好な生物の生息生育場となっていました。砂利採取による河床低下や護岸整備などにより、このような環境が減少しました。

このため、河口部において干潟やヨシ原の再生を図り良好な河川環境を創出します。

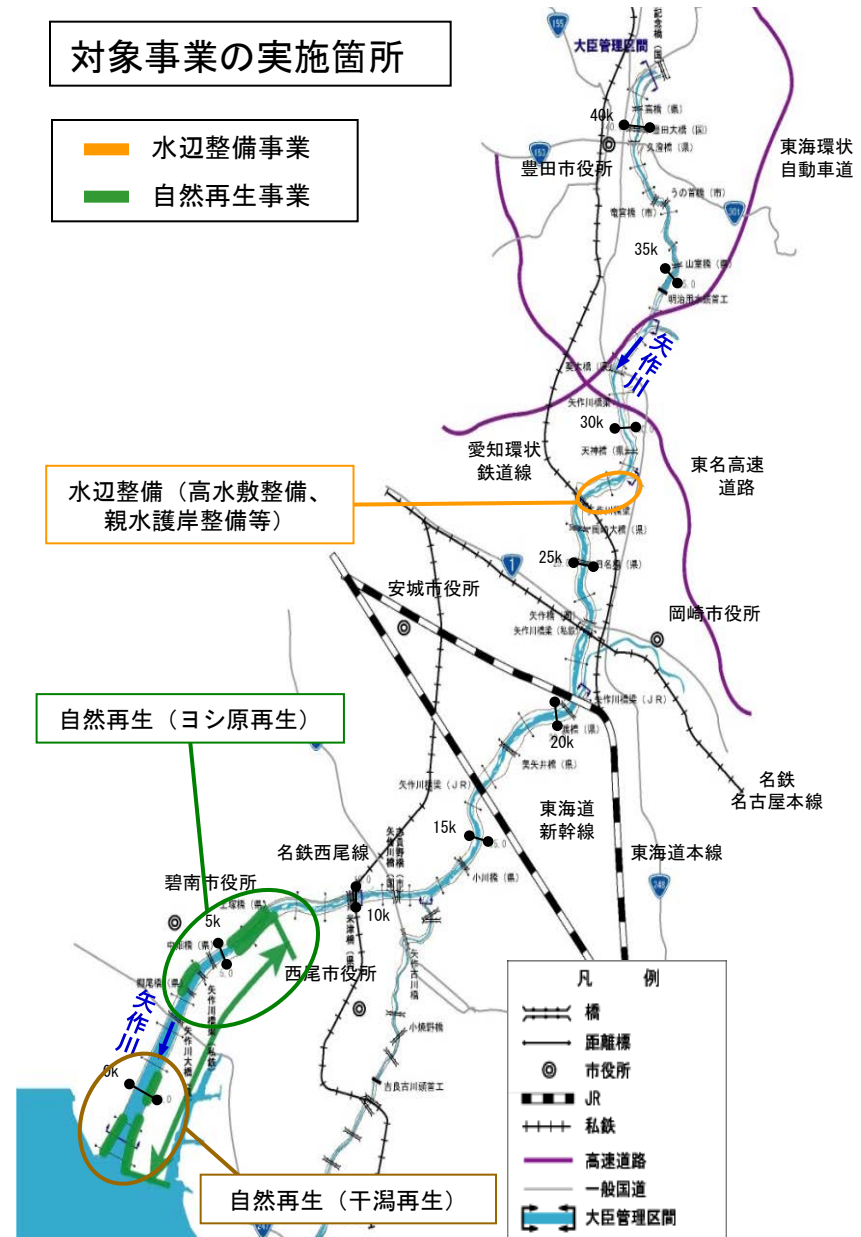
また、中流部においては、親水護岸整備、高水敷整備などを実施することにより、親水やレクリエーションの場などとして安全に活用できる水辺空間を形成します。

### 【事業の概要】

- 事業区間：矢作川(愛知県)
- 建設工期：平成15年度～平成32年度
- 全体事業費：約26.5億円
- 整備内容：
  - 水辺整備（高水敷整備、親水護岸整備等）
  - 自然再生（干潟再生、ヨシ原再生）
- 費用対効果：
  - B/C=3.3（H24再評価時）

### 対象事業の実施箇所

- 水辺整備事業
- 自然再生事業



## ②事業の計画内容と投資効果

### 水辺整備事業：大門水辺整備

#### 計画内容

歩道の整備（岡崎市）

階段や坂路を設置（国）

公園整備（岡崎市）

高水敷整備（国）

護岸の整備（国）

（整備前の堤防）



歩道や階段、坂路が設置され、水辺へ安全に近づけるようになる。

また、高水敷を安全に利用できるよう、グラウンド等が整備される。



整備後

高水敷の整備

H26.12撮影

歩道の整備

勾配を緩やかにし、階段を整備

整備後

護岸の整備

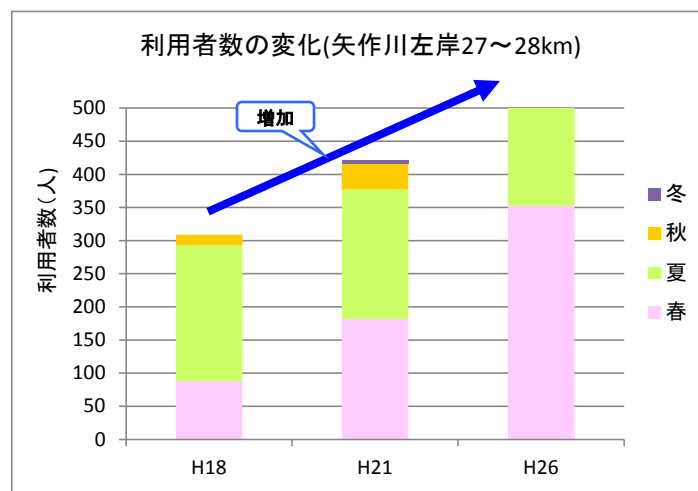
H20.5撮影

#### 投資効果



高水敷のオープンスペース等が、近隣の小学校のマラソン大会の会場として利用されている。

堤防道路が散策等に利用されている。



※河川水辺の国勢調査 河川空間利用実態調査より。  
矢作川左岸27~28kmの日利用者数

# ②事業の計画内容と投資効果

自然再生事業：河口部自然再生

## 計画内容

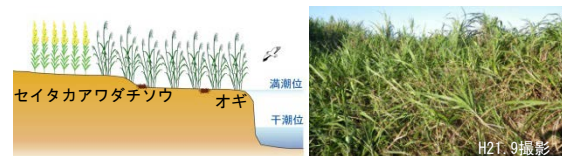
### 整備前（干潟）

地盤の高さが低く窪地が形成されており、ヘドロがたまるなど生物がすみにくい環境となっていました。



### 整備前（ヨシ原）

河床低下により河川が陸域化し、オギや外来植物であるセイタカアワダチソウが生える環境となっていました。



### 整備後（干潟）

砂を投入して干潟を造成し、シギ・チドリ類などの鳥類、アサリ、シジミ等の貝類などが生息しやすい環境になります。



### 整備後（ヨシ原）

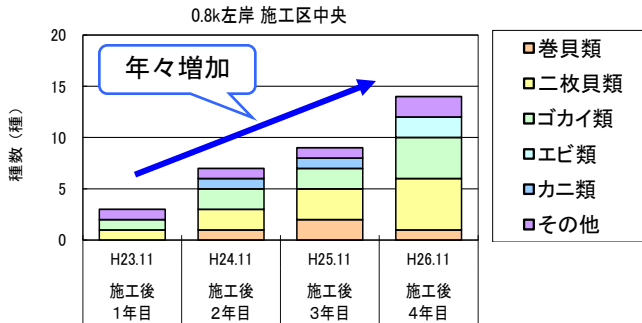
掘削により地盤を下げることでヨシが生えやすくなり、オオヨシキリやアシハラガニといった生物が生息しやすい環境になります。



## 投資効果

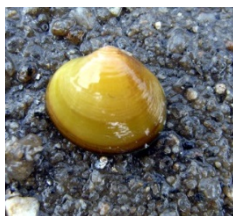
### ①干潟を利用する生き物の状況

干潟の再生箇所では、干潟を利用する生物の種数が増加しています。



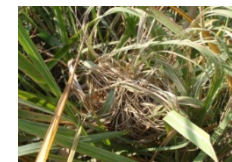
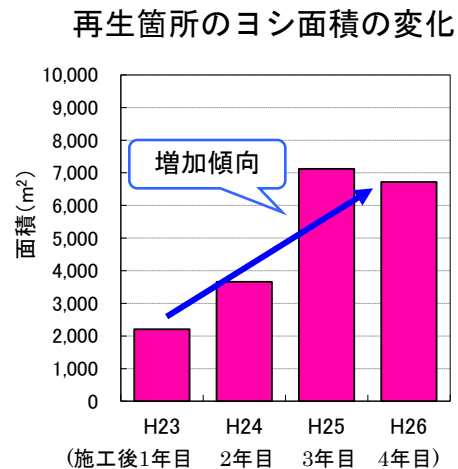
再生箇所の底生動物の変化

※モニタリング調査結果による



### ②ヨシ面積の状況

施工後、ヨシの面積が増加しています。ヨシ原に依存するオオヨシキリなどの巣や、カヤネズミの巣が確認されています。



※モニタリング調査結果 [5.4~5.6k (H22施工箇所)] による  
※H26は植生遷移によりヨシ面積が減少

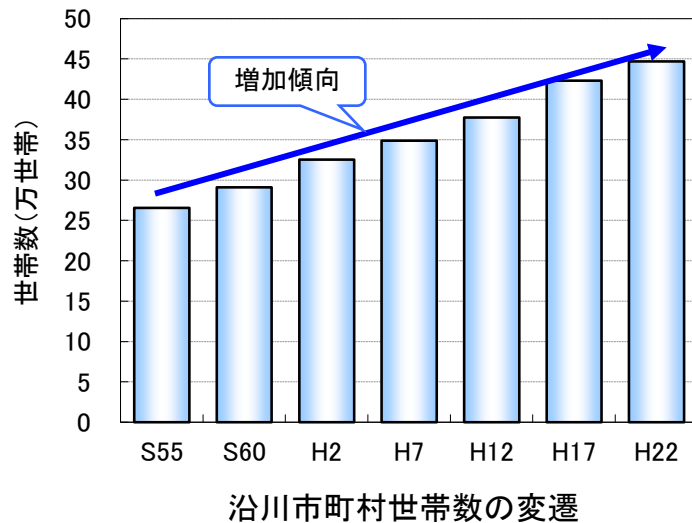
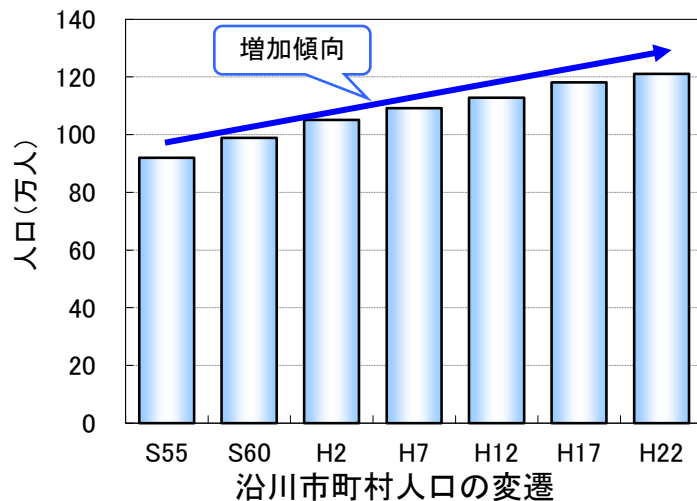


### ③事業の必要性等

#### 1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

- ・沿川市町村の人口は年々増加傾向にあります。
- ・沿川市町村の世帯数は年々増加傾向にあります。

- ・矢作川流域内は、新東名高速道路（平成27年度末開通予定）、東名高速道路、東海環状自動車道、一般国道1号、JR東海道新幹線、東海道本線等の重要な交通網が整備されています。

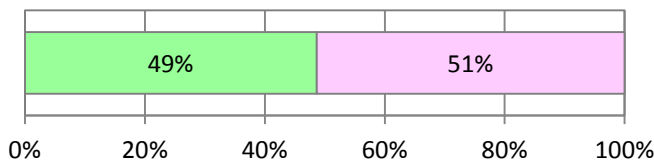


(出典：国勢調査；岡崎市、碧南市、豊田市、安城市、西尾市の合計値)

## 2) 事業の進捗状況

### 水辺整備、自然再生合計

- ・全体の進捗率は平成27年度末事業費ベースで約49%となっています。(参考：前回評価時の事業進捗率は約41%)
- ・地域と連携した取り組みと一体となり事業の進捗が図られています。



全体事業費：2,645百万円  
 実施済み：1,287百万円  
 残事業費：1,358百万円

■ 事業実施済み

■ 事業未実施



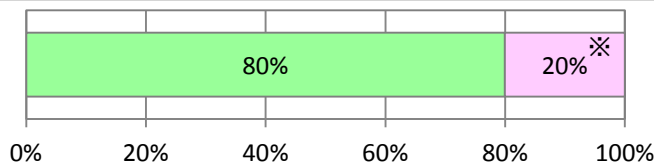
川と海のクリーン大作戦  
(西尾市)の様子



地域住民と連携した  
ヨシ植えの様子

### 大門水辺整備

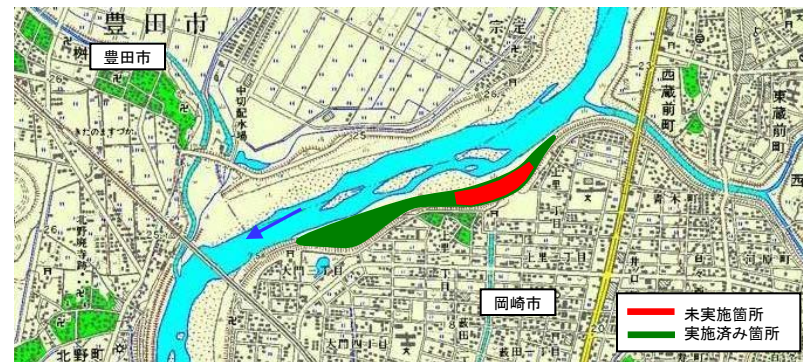
進捗率は平成27年度末事業費ベースで約80%となっています。  
 (参考：前回評価時の事業進捗率は約74%)



■ 事業実施済み

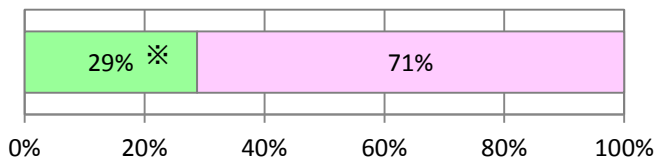
■ 事業未実施

※残事業はすべて岡崎市の施工分



### 河口部自然再生

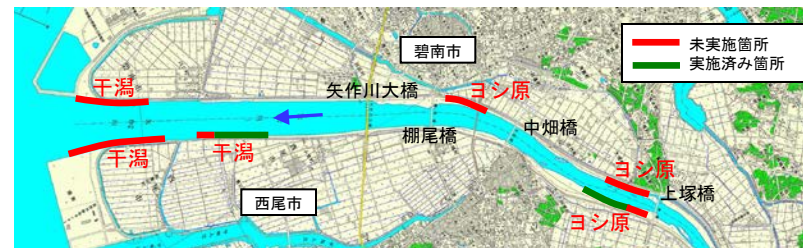
進捗率は平成27年度末事業費ベースで約29%となっています。  
 (参考：前回評価時の事業進捗率は約21%)



■ 事業実施済み

■ 事業未実施

※整備内容毎の進捗率は、  
 干潟：約26%    ヨシ原：約37%



## 2. 県への意見聴取結果

○「対応方針（原案）」案に対して異議はありません。

- 1 なお、今後も事業効果を把握しながら、事業を実施していただくとともに、コスト縮減への配慮についてもお願いしたい。

## 3. 対応方針（原案）

- ・ 水辺整備実施箇所では、沿川小学校の活動の場として利用されるなど、利用者が増加しています。また、自然再生実施箇所では、干潟・ヨシ原の再生に伴い多様な生物を確認するなど、事業の効果が認められます。
- ・ 地域住民等により清掃活動が行われるなど、河川愛護の意識が高まっています。地元自治体等も本事業に対して協力的であり、更なる事業の推進が期待されます。
- ・ 以上のことから、事業を継続します。